

か し じょうみやくりゅう

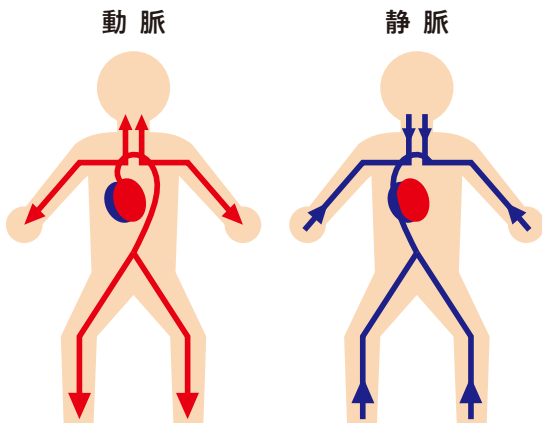
下肢静脈瘤



足の血管がデコボコして目立つようになってきた。足がむくんでかゆい・痛いなどの症状をお持ちの方いらっしゃいませんか。**下肢静脈瘤**という病気の可能性があります。何年も前から血管がデコボコしているけど、何も困らないという方もいると思います。しかし、放って置くと進行し様々な症状を起こしてくる病気です。日本人の約13%がこの病気を持っていると言われています。今回は下肢静脈瘤についてお話をさせていただきます。

血液の流れについて

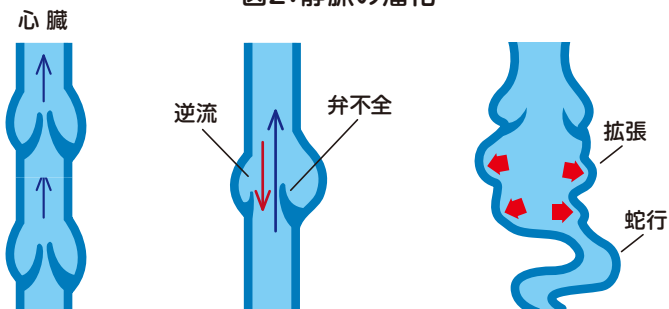
図1:動脈と静脈



血管には大きく分けて2種類あります(図1)。心臓から全身の臓器に血液を送る血管、これを「**動脈**」と呼びます。酸素を多く含んだ「赤い血液」が流れる血管です。心臓のポンプの作用で勢いよく血液が流れています。動脈は体の奥側を走っているため、皮膚表面に見えることはほとんどありません。全身の臓器から心臓に血液を戻す血管、これを「**静脈**」と呼びます。二酸化炭素を多く含んだ「黒っぽい血液」が流れる血管です。字のごとく血液の流れは静かにゆっくりで、所々に節があり、心臓へ血液を上手に返すための逆流防止弁が付いています。静脈は体の奥側を走っているだけでなく、皮膚表面にも多くみられます。静脈はネットワークを形成し、それぞれが拡張できるため、動脈の約20倍もの血液をその血管内にためることが出来ます。

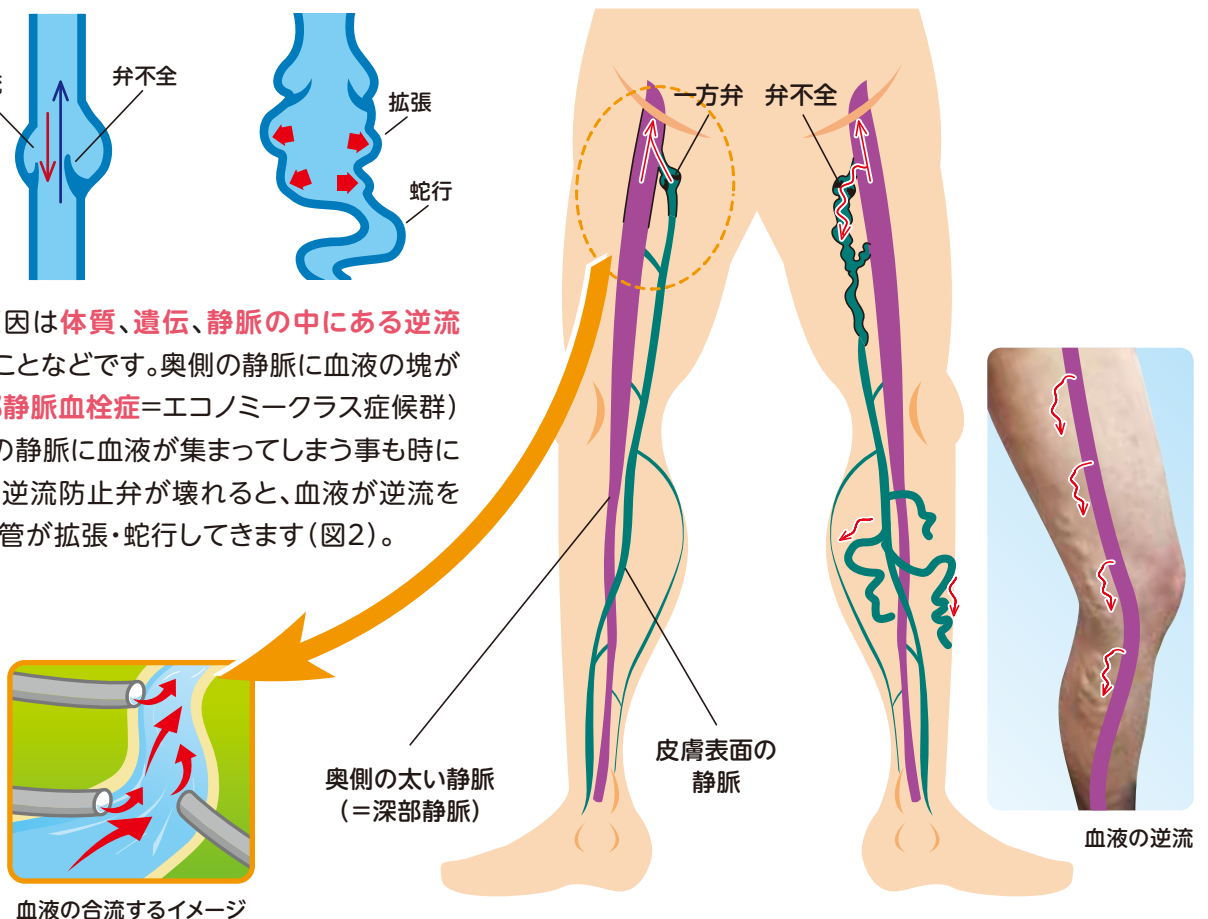
なぜ静脈瘤になるの?

図2:静脈の瘤化



下肢静脈瘤の原因は**体質、遺伝、静脈の中にある逆流防止弁が壊れる**ことなどです。奥側の静脈に血液の塊ができる病気(**深部静脈血栓症**=エコノミークラス症候群)により皮膚表面の静脈に血液が集まってしまう事も時に原因となります。逆流防止弁が壊れると、血液が逆流を起こして滞り、血管が拡張・蛇行してきます(図2)。

静脈瘤のでき方



どんな人ができやすいの？

一般的に長時間の**立ち仕事**をしている人に多くみられます。男女比は女性が2倍多く、**妊娠**を契機に発症する方は10%程度との報告があります。好発年齢は男性が40～50歳代、女性が20～30歳代です。

コルセット、ガードルでの体の締め付け、**便秘、骨盤内の腫瘍、手術歴**も発症に関与していると言われています。**家族歴**が強く指摘されている病気です。

どんな症状がでるの？

足に汚れた血液が滞ることで症状が出現します。特徴的な症状は

- ①静脈のふくらみ
- ②痛み
- ③かゆみ
- ④むくみ
- ⑤こむら返り(足のつり)

進行すると...

- ⑥色素沈着(皮膚の黒ずみ)
- ⑦皮膚潰瘍(皮膚のえぐれ)

などを生じることもあります。

どんな静脈瘤があるの？

足の皮膚表面には2系統の静脈が通っています。くるぶしから足の内側を通り、足の付け根で奥側の太い静脈に合流する**大伏在静脈**(だいふくざいじょうみやく)と、アキレス腱の辺りから膝の裏を通り奥側の太い静脈に合流する**小伏在静脈**(しょうふくざいじょうみやく)です。

これらの皮膚表面の静脈が **ボコボコとふくらむタイプ(A)**、その枝がふくらむタイプ(B)、もっと細かい静脈が網目のように広がるタイプ(C)、1mm以下の網細血管がクモの巣のようにはびこるタイプ(D) があります。これらはすべて下肢静脈瘤です。

※血栓などで炎症が生じ、重症化した皮膚潰瘍(E)



どんな検査でわかるの？



エコー検査



CT検査

外来では問診や診察で下肢静脈瘤の存在がわかります。多くの場合、原因を調べるために**静脈エコー検査**を行います。エコー検査では奥側の太い静脈から皮膚表面の静脈への逆流の有無を確認します。また静脈内に血液の塊(血栓)ができていないかを調べます。必要に応じて静脈の走行を確認するためにCT検査を行います。

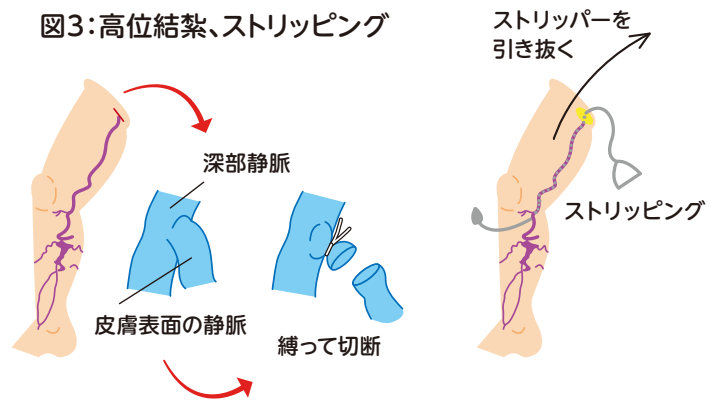
どんな治療があるの？

最も一般的な治療は**弾性ストッキングの着用**です。ストッキングは**中圧以上**のものをお勧めします。履くのが大変ですが、ストッキングで足を締め付けることにより静脈瘤の中に血液が溜まりません。血液は奥側の太い静脈に流れスムーズに心臓に戻っていきます。ストッキング着用は症状を軽快させ、悪化の予防を行うことができます。しかし一旦ふくらんでしまった静脈を元には戻す効果はありません。ふくらんだ静脈を目立たなくする方法は、手術で取り除いてしまうか、血液が流れ込まないようにする方法です。

昔から行われている手術は、皮膚を切開し、逆流が生じている静脈をしぼる方法(**高位結紮**)、またはふくらんだ静脈の中に金属のワイヤーを通し、引っ張り抜く方法(**ストリッピング**)です(図3)。

当院では、より侵襲性が低く、効果のある**レーザー治療**を行っています。

図3: 高位結紮、ストリッピング

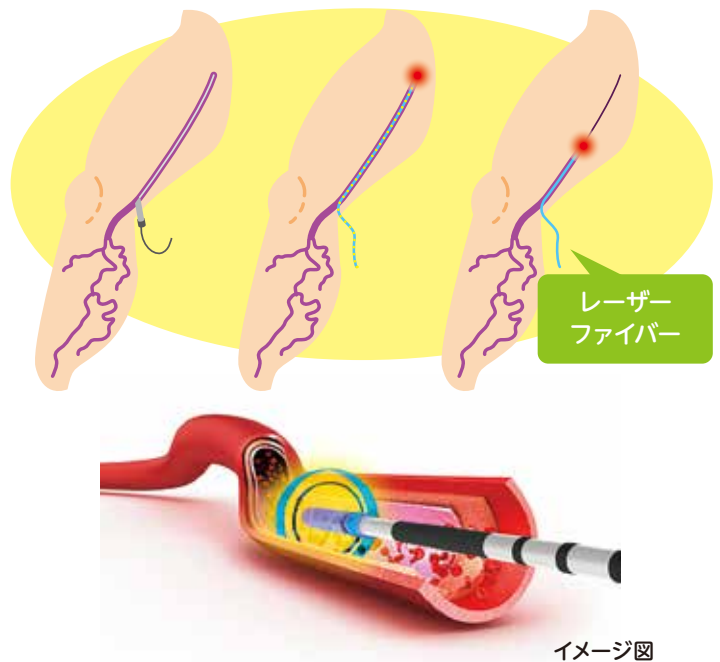


レーザー治療とは？

手術室で行う治療です。局所麻酔に静脈麻酔(全身麻酔)を併用して行います。

エコーでふとももの静脈を確認し、針を刺してそこから細いレーザーファイバーを挿入します。静脈の周りに十分な局所麻酔した後、レーザーで静脈の内側の壁を焼き、血管をつぶすことで血液が入らないようにします(図4)。すねやふくらはぎに大きな静脈瘤がある方には、レーザー治療に加えて5mm程度の小さな傷で、瘤化した血管を取り除きます。手術後は翌日から仕事に復帰していただけます。

図4: レーザー焼灼術



小切開による
静脈瘤切除



! 下肢静脈瘤が気になる方は
心臓血管外科外来を受診されることをお勧めします。

お問い合わせ

北斗病院 地域医療連携推進課 直通 ☎ 0155-47-3093

【受付時間】月～金曜: 9時～17時 / 土曜: 9時～12時 代表 ☎ 0155-48-8000

※上記時間以外も受付致しますが、返信は翌日または休日明けとなりますので、ご了承ください。

〒080-0833 帯広市稲田町基線7番地5

2019年10月1日 初版
2020年9月15日 改訂